

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課美術館

会議名 令和5年度第1回諏訪市美術館協議会

開催日時 令和5年9月14日(木) 15時00分 から 16時40分まで

開催場所 諏訪市公民館視聴覚室

出席者

委員：金井直、川上圭子、高田一郎、竹森公男、根橋ほなみ、花岡克行、藤森民雄、  
宮坂武芳(敬称略)

(会議欠席委員)西村文子、藤森汎

事務局：三輪教育長、細野教育次長、宮阪生涯学習課長、濱館長、古川主任、仁科学芸員

資料 令和5年度第1回諏訪市美術館協議会 資料

協議議題(内容)及び会議結果(要旨) ●質問、意見 ○事務局説明

## 1. 開会

## 2. 任命書交付(机上配布)

## 3. 教育長挨拶

## 4. 委員長挨拶

## 5. 自己紹介

## 6. 議事(進行:藤森委員長)

### (1)令和4年度事業報告

●運営:来館者数が減少する冬場に集客する手段として、共催展を開催してみてもどうか。

●展覧会、関連イベント:学芸員ギャラリートークやワークショップを行うことは、美術館活動としてとても大切なことで、非常に丁寧に取り組んでいると思う。

●イベントや展覧会の周知:委員意見を参考にしながら工夫を。まず美術に興味のある人をターゲットに、次に母体数の大きい学校等に働きかける工夫をしてはどうか。

●学校連携展:この会議まで学校連携展についてよく知らなかったの、学校側へもっと知らせてほしい。

●西中との連携事業は、とても面白い取組であり、生徒の体験としても学びが深まりやすい内容だと感じた。

●公式ロゴマーク:生徒たちとのつながりを今後どう作っていくのかが大切。生徒達の全てのデザインに込められた思いと共に公式ロゴマークを伝え、活用していくことが大切だと思う。

### (2)令和5年度事業計画と経過報告

●「アートを身近に！美術館が出張します」:件数が昨年度より随分増えている。今後も拡大していく予定か。

○今年の状況をふまえ、事業内容や体制を見直し、来年度に備えたい。

●イベントの参加人数設定:せっかく開催するなら10人ではもったいない。人数制限があるのか？

○制作系のワークショップは美術館会議室の収容人数の制約上、8~10人が限度。ギャラリートークなど展示室で行うイベントは人数制限を設けていない。

●対話型鑑賞:学校での対話型鑑賞で持ってきていただく収蔵作品はどれも素晴らしい。

●展覧会のつながり:赤羽史亮展は、美術館の可能性が開かれた展示だった。昨年の中村恭子展に続き、年に一度は意識的に現代美術を盛り込むという館のスタンスが見える。今年の企画展「And Again」も含め、視点のしっかりしたアーティストが次々に、必ず、毎年、誰かが諏訪に現れる、といったリズムが大切。その流れが見えている中で、「過去の情景と未来の風景」で一般の作品を募集し展示するという試みは、意図は理解するが、事後の反省と評価を慎重に念入りにやるのが大切だと思う。

### (3)令和6年度事業計画

●美術館にとって記念の年、節目の年にはそれを冠にした展覧会を開催したらどうか。

○令和7年に開館70周年を迎えるので参考にしたい。

### (4)寄贈資料選考委員会の結果報告

●今回提示した作品については審議に至らず、委員からご指摘のあった、「選考の基準を共有すること」、「対象作品を実見すること」について対応を検討した上で、改めて選考委員会を開催することとなった。

## 7. その他 なし

## 8. 閉会 玉本教育委員より挨拶